

市内の庚申塔、9基を紹介します

国分北2・6 (国分尼寺金堂跡)



▲堂の付近に2基の庚申塔と地蔵が並ぶ

① 造立年月日 寛文6(1666)年3月16日
 国分尼寺の庚申堂内に設置。江戸時代前期のもので、堂内には碑文の解説もあり、現在も近隣住民の手で丁寧に管理されている。三猿がはっきりと分かる塔。



▲国分尼寺金堂跡の碑が残る歴史ある場所

② 造立年月日 享保5(1720)年11月
 土台部分に三猿あり。



③ 造立年月日 宝暦10(1760)年9月
 土台に三猿あり。庚申塔には「庚申供養」や「庚申塔」と刻まれているものもある。



国分南1・19 (消防団第1分団詰所わき)

④ 造立年月日 嘉永3(1850)年9月
 正面には庚申塔とあるが、道標の役割もしていた。東には「江戸」、西には「大山」や「あつ木」などの文字が分かる。



▲史跡相模国分寺跡の碑と並ぶ庚申塔(左から2つ目)。この辻が交通の要所であったことがしのばれる

大谷南3・25

⑤ 造立年月日 正徳3(1713)年11月
 手が6本の青面金剛像の下に刻まれている三猿は風化により薄れてしまっている。



▲大谷の切り通しの途中にある祠の中、静かにたたずむ

柏ヶ谷 (目久尻川弥生橋付近)

⑥ 造立年月日 正徳3(1713)年9月16日
 6本の腕を持つ青面金剛像と三猿が彫られた塔は庚申塔のスタンダードな形といわれている。



▲ほかの地蔵とともに、地元住民から大切にされている様子がうかがえる



▲6本の腕を持つ青面金剛。弓の形がはっきりと分かる

国分南1・23 (大櫓の根元)

⑦ 造立年月日 明治22(1889)年2月13日
 「見える・言わざる・聞かざる」の三猿がはっきりと分かる状態で見えている。



▲彫られた文字からは、講中7人による造立が分かる

【参考図書】
 「海老名の庚申塔」(税込み400円)
 市役所地下売店で販売中
 「ふるさとの歴史と文化遺産」
 「海老名市史」通史編 近世

国分寺台4・13 (国分寺台第4児童公園内)

⑧ 造立年月日 文政10(1827)年2月
 ⑨ 造立年月日 承応4(1655)年5月
 市内で一番古い庚申塔。



▲⑦と⑧が並び

